

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【既存の教育活動の人権教育の視点からの見直し】	「人権教育のために何をやるか？」ではなく「この教育活動の何が人権教育につながるか？」の視点に立ち、人権教育の改善に努めた。 文科省は「人権教育を通じて育てたい資質・能力」として、知識的側面5項目、価値的・態度的側面8項目、技能的側面7項目を挙げている。これらを既存の教育活動の中でどれを強調して取り組むのかを人権教育部で精選し、全職員で共通理解を図り、組織的に人権教育を実施した。特に人権感覚を身に付け、態度や行動に表すことができるように努め、価値を感じ、実践していく態度の育成に重点を置いた。
	成果 一例を挙げると、メロディーフェスティバル（全校音楽会）では「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」（態度）、「他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能」（技能）などを人権教育の視点として設定し、各学級での練習では、児童一人一人の音楽へ技能や意欲を、互いに認め合い励まし合うなどして誰もが楽しく活動させることができた。
	課題 文科省で挙げている知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の中では本校において態度的側面の育成が望まれる。職員研修の重要性の観点から、価値的・態度的側面8項目について全職員による理解を深め、既存の教育活動での有効な実践の在り方を工夫したい。
2 実践2 【人権メッセージの全校放送】	茨城県では「人権メッセージ」の募集している。この事業を活用し、児童に「自分の大切さとともに他の人の大切さをみとめること」について授業を行い、その上で人権メッセージを書く活動を実施した。小規模校の強みを生かし、給食の時間の全校放送で全児童のメッセージを発表する「ありがとうの時間」を開設した。一人一人のメッセージには、身近な友人関係をはじめ、家庭でのことや世界に目を向けたものなど多様な内容が発表された。
	成果 「ありがとうの時間」が始まると児童は熱心に傾聴し、メッセージの内容への拍手が各学級で自然に起こった。児童が心の中で考えていたことや思っていたことを率直に表現でき、聞き手の児童も感動や新たな気付きを得ることができた。学校全体の落ち着いた環境を作ることに資することができた。
	課題 全校児童に発表するため、メッセージの内容に配慮した。発表されたくないという児童のメッセージは発表を控えた。人権に関する思いは児童一人一人様々であり、日頃からのきめ細かな人権教育・教育相談を深めたい。